＜幼児教育＞

見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現する子の育成

－保育の振り返りやエピソード記述を用いた幼児理解を通して－

宜野湾市立はごろも幼稚園　教諭　仲宗根　ひろみ

目　次

Ⅰ　テーマ設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
Ⅱ　研究構想図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
Ⅲ　研究内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　1　表現の捉え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　（1）表現の過程・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　（2）幼児の表現・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3
　2　教師の役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　（1）幼児の感性を育む役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　（2）場面に応じた役割・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
　3　表現する楽しさを育む年間指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
　4　幼児期の生活・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　5　資質・能力の育み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　6　多様な可能性の理解と支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
　7　振り返りや記録からの理解と支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7
Ⅳ　検証保育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　1　主な活動名・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　2　ねらい・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　3　内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　4　活動設定の理由・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　（1）教材観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　（2）幼児観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　（3）指導観・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
　（4）活動計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　（5）本時の指導案・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
　5　検証保育研究会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　（1）保育者の反省・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　（2）意見及び感想・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　（3）指導助言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
Ⅴ　仮説の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　1　具体仮説１の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
　2　具体仮説２の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
　3　具体仮説３の検証・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
　4　検証のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
Ⅵ　研究の成果と今後の課題と対応策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　1　研究の成果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
　2　今後の課題と対応策・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
【参考文献】・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

＜幼児教育＞

見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現する子の育成

―保育の振り返りやエピソード記述を用いた幼児理解を通して―

宜野湾市立はごろも幼稚園　教諭　仲宗根　ひろみ

Ⅰ　テーマ設定の理由

平成30年度より施行の幼稚園教育要領では，幼児教育の段階で育むことを目指す資質･能力として「知識及び技能の基礎」「思考力，判断力，表現力等の基礎」「学びに向かう力，人間性等」の「３つの柱」が示されている。これらの資質・能力は「生きる力」の基盤として，幼稚園教育の基本を踏まえ，遊びや生活を通じて一体的に育まれることが重要であるとされている。そして，その資質・能力を踏まえつつ，幼稚園修了時の具体的な姿として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と整理し，念頭に置きながら幼児が発達していく姿を捉えていくことが求められる。その中で，「豊かな感性と表現」では「心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で，様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き，感じたことや考えたことを自分で表現したり，友達同士で表現する過程を楽しんだりし，表現する喜びを味わい，意欲をもつようになる」と明記されている。

幼児は，毎日の生活や遊びの中で，身近な環境と関わり，心を動かしながら自分なりに表現する楽しさを味わっている。幼稚園教育要領解説の序章に「幼児は遊びの中で能動的に対象に関わり，自己を表出する。そこから，外の世界に対する好奇心が育まれ，探究し，物事について思考し，知識を蓄えるための基礎が形成される」とある。つまり，幼児の育ちや発達において，遊ぶ環境を十分に整えることは大切なことと捉える。また，身近な環境に関わりながら，それを理解し，思考する過程で必要な様々な感情を伴い表現する経験こそが，小学校以降の子供達の生活や学習の土台になると考えられる。

学級の幼児の実態としては，気持ちが穏やかで落ち着いて行動する子が多いが，いろいろな友達と関わりながら，夢中になって遊び込む経験の弱さを感じる。また，恥ずかしさや自信のなさからか，個々の発想や考えを集団の中で積極的に表現したり，活かしきれていない姿が見受けられる。これらの実態を踏まえ，幼児間を繋げていく支援を行いながら共に遊び，表現する楽しさが感じられるよう一人一人の思いや考えに寄り添う保育を行ってきた。しかし，幼児の柔軟で個性的な表現や，素朴でもその子らしい多様な表現に対する教師の捉えの幅が狭かったり，表現したくなる気持ちや友達と共感し合いたい思いを引き出す工夫も大切であるという視点が足りなかったのではないかと考える。

そこで本研究では，心を動かす多様な体験や集団での遊びの中で，試行錯誤しながらも表現する過程を楽しめるよう，その子らしい姿や言動，思いや考えを温かく受容しながら理解すると共に，一人一人の個性や潜在的な可能性を伸ばしていけるよう支援していきたいと考える。教師が幼児との生活を大切にして，保育の振り返りやエピソード記述を用いて，幼児の心の動きに迫りながら更に理解を深めて関わることで，幼児は安心して楽しみながら見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現するようになるであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ　研究構想図

研究テーマ
見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現する子の育成
―保育の振り返りやエピソード記述を用いた幼児理解を通して―

幼稚園教育目標
〇感動する子（どきどき）
〇挑戦する子（わくわく）
〇仲よく遊ぶ子（にこにこ）

幼児の実態
〇穏やかで落ち着いている
〇友達と関わり，夢中になって遊び込む経験の弱さがある
〇それぞれの発想や考えはあるが，友達間で積極的に表現できていない

幼稚園・教師の実態
これまでの生活体験や発達段階を理解し，個に応じた関わり方を工夫したり，環境を整えるよう努力している

家庭・地域の実態
〇公共施設や商業施設が建ち並ぶ一方で，田芋畑等の自然環境も豊かである
〇共働きの世帯が多く，入園・進級前に集団生活を経験している子が多い

目指す幼児像
〇元気で明るいはごろもっ子
〇話をよく聞き，自分の考えを言えるはごろもっ子
〇思いやりがあり，みんなと仲良く遊べるはごろもっ子

研究目標
友達と相互に受容する関係性の中で，遊びに没頭しながら心揺さぶられる様々な感情体験や試行錯誤を重ね，その子らしく伸び伸びと多様な表現を楽しめる子を育む

研究の基本仮説
保育の振り返りやエピソード記述を用いて心の動きに迫りながら，その子らしい多様な考えや思いを理解し支援することで，幼児は安心感や自信を持って，見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現するようになるであろう。

社会的背景
感情を伴う体験の場の不足や自己表現力の弱さが見られ，集団生活の場である幼稚園が，様々な体験や豊かな心を育む場として果たすべき役割が大きい

県教育施策
〇沖縄県教育振興基本計画
〇学力向上推進プロジェクト
〇学校教育における指導の努力点
〇黄金っ子応援プラン

市教育施策
〇宜野湾市教育大綱
〇宜野湾市教育振興基本計画
〇間をそろえる・つなぐ教育の推進（幼小中連携）

具体仮説１
教師が幼児との生活を大切にしながら，一人一人の思いや考えを認めていくことで，幼児が受容される喜びを感じ，安心して自分らしさを表現していけるであろう。

研究内容１
１　表現の捉え
２　教師の役割

具体仮説２
心揺さぶられる体験の場や友達との関わりの場を工夫することで，幼児は取り巻く環境への親しみや興味が深まり，見たこと感じたことを思い思いに表現することを楽しむであろう。

研究内容２
３　表現する楽しさを育む年間指導計画
４　幼児期の生活

具体仮説３
幼児の自発的な活動としての遊びの中で，柔軟で個性的な表現や試行錯誤しながら表現していこうとする過程を理解し支援することで，幼児は自信や意欲を高めながら，自分なりの方法で伸び伸びと表現するであろう。

研究内容３
５　資質・能力の育み
６　多様な可能性の理解と支援
７　振り返りや記録からの理解と支援

検証保育の計画・実践・分析・考察

研究のまとめ・研究成果と今後の課題

Ⅲ　研究内容

１　表現の捉え

（１）表現の過程

自分の感情や思想，意思等の内面にある世界を色や形や音で表したり，表情や身振り，動きや言語で示したりするなど，様々な手段で外部に出すことが表現であると捉える。要するに，何かが媒介することによって具体化されると考える。それは，欲求に促され，それを満たそうとする活動で，人が社会的に生きる上で欠くことのできない人間的な行為であり，コミュニケーション手段でもあると捉える。また，表現することで自分の存在を確かめ，自分の内面を広げ，そこに新しい自分の表現を創り出すという充実した体験へと繋がり，内面を豊かに育んでいけるのであると考える。平田智久他（2010）は，「表現の源は一人ひとりのなかにある。そのことを理解するキーワードは，＜感じる・考える・行動する＞であり，それが表現の源流である」と述べている。そして他からの情報や刺激を受けながら，その一連の流れを繰り返す「内的循環」の行動で表現活動が広がり，深まっていくと考える（図１）。それぞれの表現の源流は，取り巻く環境や心の動きによって表し方や表すまでが予測できないと捉えられる。こうした過程を把握した上で，次に幼児の表現を理解するにあたり，大切にすべきことは何か詳しく考察していきたい。

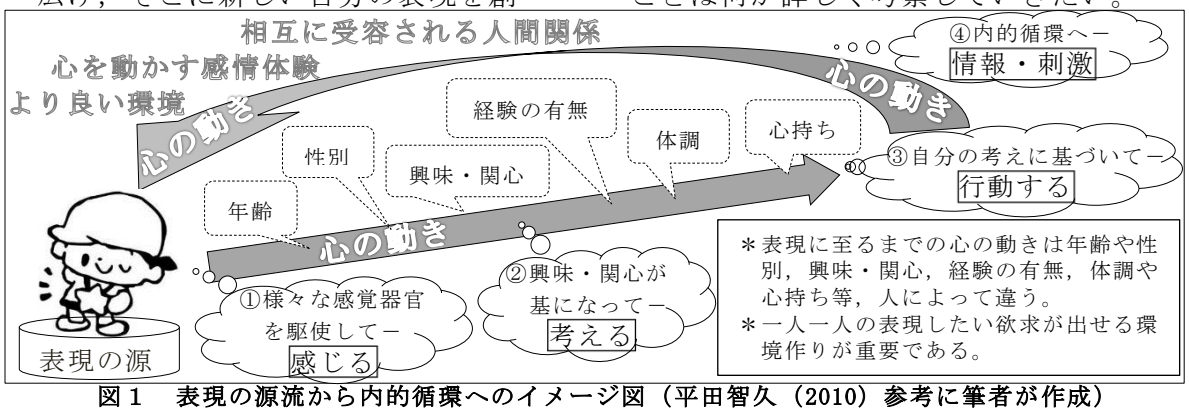


図１　表現の源流から内的循環へのイメージ図（平田智久（2010）参考に筆者が作成）

（２）幼児の表現

池田裕恵・猪崎弥生（2016）は，「幼児は，自分の感じたこと，感動したこと，心動かされたこと，経験したことなどを，自分が持ち合わせている声，表情，手足，身体の運動，言葉，歌などすべてのレパートリーを用いて，表現しようとしている」と述べている。その幼児の表現とは，生活の中でどういったものが見られるだろうか，大嶋恭二他（2012）が記してあるのを参考に表にした（表１）。それは，さりげない表現も含め多岐にわたり，相互に絡み合ったり，組み合わさったりもする。望ましいのは，表現しようとする内容が生き生きと活かせられる方法を幼児が選択でき，楽しんで表せることだと考える。そこで，先ず教師は，今ある姿や実態を見つめることから始まるだろう。興味や関心を示して楽しんでいることは何か，どんなことにどんなふうに反応しているのか，それぞれの持ち味を遊びの場面や友達との関わりの中で発揮できているのか，あるいはできそうなのか等を見極めていく目と洞察力，予測する力が必要である。幼児の表現への手段や表し方は柔軟で多様であ

り，自分なりの方法やタイミングで楽しんでいくから非常に面白く，豊かだと考える。しかし，豊かさ故に捉えにくい面もあると言える。その幼児の「自分なり」を教師が理解し，認めていくことが重要で，一人一人を大切にした保育だと考える。そこを踏まえて，幼児が多様な表現を安心して楽しみ，自分らしさを表現する喜びや自信を高めていけるよう支援していこうと考える。

表１　幼児の日常的に見られる表現

身体を使って	心を伴った全身的な表現。感情そのものが身体の動きとなって表れる。日常生活の中で，必ずしも意図的ではないが，誰しも身体表現を行っている。心と身体が解放される感覚や身体を動かす楽しさ，友達と一緒に動く楽しさを大切にしたい。
音を感じて	日常的な遊びや生活の中で生まれた魅力的な音色やリズム，あるいは自然が生み出す音に敏感に反応し，関心を持ったり，取り入れて遊ぶ事。また，歌ったり踊ったり，音や曲，歌に合わせて動いたり，口ずさんだり，鼻歌を歌ったり，リズムをとって遊ぶ事。
言葉を使って	思いや考え等を表したり，伝え合うこと。言葉を遊具の一種のように用いて，様々に組み合わせて遊ぶ事。繰り返し遊ばれる事によって伝承。言葉の持つリズムの心地良さや，イメージの広がりの豊かさ，同音異義語という言葉の仕組みの不思議さや面白さを発見して遊ぶ。
色や形にして	日常の生活から沸き起こる思いやイメージを色や形として具体化していく遊び。自然素材を活かした遊びは，幼児の感覚を刺激する活動であり，季節の変化や自然そのものに目を向ける契機となる。発見や意欲を活かす豊かな環境作りが大切。

保育者のための教育と福祉の事典　大嶋恭二他（2012）参考に筆者が作成

２　教師の役割

（１）幼児の感性を育む役割

幼児の表現の豊かさに関して森上史朗(1998)は,「その子なりの思いをその子なりにあらわして，表現は豊かになる。むしろ大切なのは，その表現の豊かさを感じる，保育者の感性の豊かさであろう」と述べている。そして，黒川健一・高杉自子（1990）は「保育者自身が豊かな感性をもち，日々の生活のなかにある美しさや面白さをきめこまやかに感じとって幼児に伝えていくことも重要」と述べている。そのことから，幼児なりの閃きやイメージを受け止めたり，表現しようとしていることに共鳴したり，また，日常の中からも，教師自身が様々な出来事や周りの環境に心動かし反応したり，感動を幼児と共感し合うなど，感性を刺激し，表現を思う存分楽しめる場や時間を共有していくことが大切だと考える。つまり，教師自身が豊かに感性を働かせたり,磨いていくことがとても大事で，それが幼児の感性を育み，表現へと繋がる重要な鍵になると捉えられる。

（２）場面に応じた役割

幼児にとって，教師も重要な環境の一つである。幼児の自発的な活動としての遊びを中心とした教育を実践していく中で，思いや考えを表現する楽しさを味わい，心身の発達を促す適切な教師の役割とは何だろうか。幼稚園教育要領解説（文部科学省 2018）では，「教師は主体的な活動を通して幼児一人一人が着実な発達を遂げていくために，幼児の活動の場面に応じて様々な役割を果たさなければならない」と明記している（表２）。

表２　活動の場面に応じた教師の役割

幼児が行っている活動の理解者としての役割
幼児との共同作業者，幼児と共鳴する者としての役割
憧れを形成するモデルとしての役割
遊びの援助者としての役割

こうした様々な役割を教師が担う上で必要なことは，各場面で幼児の目線に合わせ，視座に立って関わることだと考える。本研究でも幼児との遊びや関わりの中で柔軟な対応を図り，幼児が主体的に環境（人的・物的）に関わり，様々な感情体験を通して成長し，環境との関わり方をより深められるようにしたいと考える。

３　表現する楽しさを育む年間指導計画

幼児の育ちの節目に即したふさわしい生活が展開され，取り巻く豊かで適当な環境や，適切な理解や支援を柔軟に受けながら，表現する楽しさが育まれていくよう一年間の幼児の育ちを大筋で見通して指導計画を作成した。振り返りや編成を行いながら，この立案が保育実践に生きるような指導計画としたいと考える。

期	第Ⅰ期（４月～５月中旬）	第Ⅱ期（５月下旬～７月）	第Ⅲ期（９月～１０月）	第Ⅳ期（１１月～１２月）	第Ⅴ期（１月～３月）
育ちの節目	【幼稚園って楽しいなぁ】 遊びや教師との触れ合いを通して，園生活に親しみ，安定していく時期。	【友達っていいなぁ】 周囲の人やものへの興味・関心が広がり，自己を発揮しながら友達と関わり遊びを広げていく時期。	【みんなで遊ぶと楽しいなぁ】 友達とのつながりができ，友達とイメージを伝え合いながら，遊びを楽しむ時期。	【みんなが集まれば何かできる】 友達とのつながりを深めながら，自己の力を発揮していく時期。	【みんなの力を合わせて創り出す生活】 生活や活動の見通しがもてるようになり，自主的に生活を進めていこうとする時期。
幼児の姿	・幼稚園生活への期待はあるが，新しい環境への戸惑いや緊張で，口数が少ない。 ・登園時は不安そうな表情である。 ・積極的に遊ぶ子もいるが，遊びを傍観したり，教師の傍にいて安定している子もいる。 ・手遊びやリズム遊び，絵本を楽しみながら緊張が解れ，笑顔が見られる。	・笑顔で楽しんで園生活を過ごし，教師や友達と会話をすることが増えている。 ・気の合う友達ができ，誘って好きな遊びや興味を持った遊びを楽しんでいる。 ・小さな虫に興味を示し，捕まえたり，動きを観察したり，育てようとしている。 ・色水遊びや石鹸遊び等，感触を楽しんだり，試したり工夫して遊ぶ姿がある。	・夏休みやこれまでの経験を遊びに活かして友達と楽しんでいる。 ・自分の力を試そうとしたり，友達の良さや力を認めたり応援しながら，意欲的に遊んでいる。 ・友達とイメージを共有したり，思ったことや考えを相手に伝えたり聞いたりして遊びを進めている。	・友達関係や活動範囲の広がりがある。 ・小集団での遊びが活発になり，イメージの実現に向けて互いの良さを受け入れ，試したり考えたり夢中で遊んでいる。 ・アイディアを出し，様々に思いや考えを表現することを楽しんでいる。 ・難しいことにも力を出しながら，繰り返し粘り強く挑戦している。	・多様な考えやアイディアを活かしながら遊びに取り入れ，友達同士で様々に表現することを楽しんでいる。 ・幼稚園修了や就学を意識したり，仲間関係にまとまりが見られ，互いの良さを認め合い，生活する姿がある。 ・共通の目標に向かって，力を合わせて最後まで頑張ったり，応援したりしている。
ねらい・内容	◎園生活に親しみを持ち，喜んで登園する。 ・教師や友達に親しみを持つ。 ・やりたい遊びを見つけ楽しむ。 ・歌やリズム遊び，触れ合い遊びを教師や友達と一緒に楽しむ。 ・絵本の読み聞かせを楽しむ。	◎好きな場所や遊びを見つけ，友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 ・遊びの場を共有したり，友達の様子を見たり真似て遊んだりする。 ・いろいろな素材に興味を持つ。 ・動植物の観察や世話をしながら，動きや生長に関心を持って関わる。	◎友達とイメージを共有しながら，試したり工夫して遊ぶ。 ・感じたことや考えたことを表したり，相手に伝えながら遊ぶ。 ・身近な素材や自然物を遊びに取り入れて楽しむ。 ・曲に合わせリズム遊びを楽しむ。	◎目的や目標に向かって力を出したり，友達と協力したり，イメージを合わせて遊ぶことを楽しむ。 ・友達との関わりの中で，イメージを豊かにし，実現に向けて相談したり，様々な表現を楽しむ。 ・難しいことにも根気強く頑張っていく。	◎仲間との繋がりを深め，互いの良さや成長を認め合い，幼稚園修了を意識しながら，協力して活動する。 ・友達と相談しながら，積極的に遊びや活動を進めていく喜びや充実感を味わう。 ・見たこと感じたことを伸び伸びと表現することを楽しんで，意欲や自信を深める。
幼児の遊び	塗り絵・お絵描き・パズル・粘土遊び・ブロック遊び・ままごと・パペット遊び・砂遊び（型抜き，山作り，穴掘り）・固定遊具・ケンケンパ・虫の観察（蝶，蜂，幼虫）・鬼ごっこ・小動物との触れ合い等	紙飛行機・恐竜遊び・粘土遊び・泥遊び・ブロック遊び・製作遊び・お店屋さんごっこ・砂遊び（ダム，落とし穴）・固定遊具・色水遊び・シャボン玉・虫取り（ヤゴ，蝉）・ボール遊び・触れ合い遊び等	ごっこ遊び・運動遊び（フープ，ぽっくり，縄跳び）・サッカー・しりとり・なぞなぞ・石鹸ケーキ作り・製作遊び（廃材，自然物）・虫取り（蝶の幼虫，トンボ）・虫の世話や観察（図鑑）・リーダー探し等	運動会ごっこ・リズム遊び・運動遊び・鉄棒・けん玉・お店屋さんごっこ・見立て遊び・虫の観察や世話・言葉遊び（逆さ言葉，連想遊び）・楽器遊び・サッカー・製作遊び・劇ごっこ・ペープサート等	リズム遊び・劇遊び・お話作り・絵本作り・リズム合奏・カルタ・すごろく・トランプ・郵便ごっこ・凧揚げ・こま回し・運動遊び・言葉遊び・文字遊び・サッカー・ごっこ遊び・見立て遊び・虫の観察や世話等
教師の理解と支援／環境構成	・共に行動したり，一緒に遊びながら笑顔で関わり，安心して園生活が楽しく送れるようにする。 ・保護者とも連携を取り合って，寄り添ったり見守りながら温かく受容し，幼児理解を図る。 ・これまでの生活経験や発達段階を理解し，それぞれのペースに合わせて，言葉掛けや関わり方を工夫していく。 ・幼児の興味や関心ある遊びを用意したり，動植物と触れ合える環境を整える。 ・ゲームや触れ合い遊びを楽しみ，友達と関わったり，名前を知る場をつくる。	・活動の様子を見て必要な遊具を準備したり，環境の再構成をする。 ・雨天時に戸外を散策したり，水たまりで遊び，雨の日ならではの発見や不思議さに気付いたり，自然環境への関心が広げられるように工夫する（幼児の視線の先に気付く，つぶやきに耳を傾ける）。 ・砂や泥や水等に触れ，感触を楽しんだり，開放感を味わい思いきり遊べるように，教師も一緒に思いきり楽しむ。 ・自分のしたいことの実現に向けて考えたり繰り返し試している姿を認め，共感しながら，一緒に考えていく。	・個々の感性を刺激できるような活動内容や環境構成を準備し，気付きや気持ちを引き出す言葉かけの工夫や，場の雰囲気づくりに努める。 ・素朴であっても表そうとしている様子や発想（考え）を受け止め見守り，タイミングを見て支援する。 ・一緒になって楽しみ，幼児の興味や関心を広げたり，活動への意欲を膨らませていく。 ・力を発揮していることや，面白い発想で表現しているところを見逃さず認め，周りにも知らせていく。	・描いたり作ったものを飾ったり，気付いたことや楽しかったことを伝え合いながら，互いに認め合い刺激し合って生活できるようにする。 ・力を出したり，頑張っている姿を言葉に出して認めたり応援し，活動への意欲や自信を深めていく。 ・戸外や自然に目を向けて遊んだり，虫や動植物の様子や，季節の変化を感じられるように工夫する。 ・グループや学級での話し合いの場を大切にし，思ったことを伝えたり，他児の考えや感性に触れる機会をつくる。	・生活発表会に向けて話し合ったり，一人一人が思いや考えを出し合い，力を発揮しながら作り上げていけるように，練習も含めて場や時間を十分に確保する。 ・アイディアを出し合い，喜んで歌ったり踊ったり，身体を使って思いのままに表現する楽しさが味わえるようにする。 ・これまでの生活を振り返って成長を確かめ合い，自信やこれからの生活への意欲へ繋げていく。 ・言葉や文字遊びを取り入れ，面白さに触れ，遊べるようにする。 ・個々の思いや良さが出ているか見守る。

4　幼児期の生活

年間指導計画から，検証保育を行う第Ⅳ期の幼児の育ちの節目を見ると「友達とのつながりを深めながら，自己の力を発揮していく時期」とある。友達との関わりが活発になり，相互に刺激し合いながら物事への意欲や力が高まっていくであろう。それには，試したり夢中になれる多様で豊かな遊びが保障される環境があり，自分の力を出しながら友達と十分に関わって展開できる生活が持てることが大事だと捉える。その遊びや生活を通して，幼児は取り巻く環境と関わって感情を伴う体験をし，自己を表出し，そして好奇心や探究心，思考力が育まれ，知識を蓄えるための基礎が形成される（図２）。幼児期にふさわしい生活の中で，幼児が成長や発達にとって必要な体験を得られ，模索しながらも自分らしく表現していける環境を整えたいと考える。

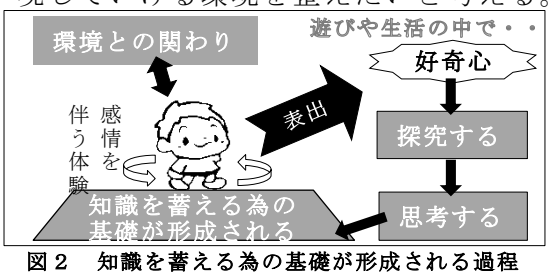


図２　知識を蓄える為の基礎が形成される過程

5　資質・能力の育み

遊びを通した総合的な指導のもとで，一体的に育めるよう努める幼児期の資質・能力（表３）は，「小学校以降の生活や学習においても重要な自ら学ぶ力を養い，一人一人の資質・能力を育成することにつながっていく」と，幼稚園教育要領解説（文部科学省 2018）で記されており，遊びの中での学びが今後の発達の基盤となると捉えられる。その資質・能力を踏まえつつ，「豊かな感性と表現」を含めた「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」（表４）を念頭に置きながら，幼児教育に取り組むこととなる。その際に留意することとして，幼稚園教育要領解説（文部科学省 2018）では，「到達すべき目標ではないことや，個別に取り出されて指導されるものではないことに十分留意する必要がある」と記されている。本研究を進めるにおいても，第Ⅳ期の育ちの節目を迎えていることから，改めて確認し，幼児が発達をしていく方向や具体的な姿を意識しながら見取り，一人一人に応じた適切な関わりや指導を通して，丁寧に育んでいきたいと考える。

表３　幼稚園教育において育みたい資質・能力

知識及び技能の基礎	豊かな体験を通じて，感じたり，気付いたり，分かったり，できるようになったりする。
思考力，判断力，表現力等の基礎	気付いたことや，できるようになったことなどを使い，考えたり，試したり，工夫したり，表現したりする。
学びに向かう力，人間性等	心情，意欲，態度が育つ中で，よりよい生活を営もうとする。

表４　幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

（１）健康な心と体
（２）自立心
（３）協同性
（４）道徳性・規範意識の芽生え
（５）社会生活との関わり
（６）思考力の芽生え
（７）自然との関わり・生命尊重
（８）数量や図形，標識や文字などへの関心・感覚
（９）言葉による伝え合い
（10）豊かな感性と表現

6　多様な可能性の理解と支援

幼児の持つ潜在的な可能性を信じて働きかけていくことは大切だと捉える。旧ソビエトの心理学者ヴィゴッキー（柴田訳 2002）は「子どもが一人で解決可能な水準と，教師の支援や友達との協同の中で解決可能な水準との狭間を発達の最近接領域（図３）と呼ぶ」と述べている。そして次のように定義する。「保育者は個々の発達の最近接領域を踏まえながら，足場をつくり，子どもが自ら育つ環境や状

況をつくりだす必要がある。すなわち，保育者は今現在のできるできないではなく，子どもの潜在的な発達可能性を見極めつつ指導をすることが重要である」と論じている。幼児一人ではできなかったり思いつかないことが，教師や友達がいることで，力やアイディアが溢れ，遊びや生活に様々な展開がもたらされる。教師は幼児との関わりの中で，予測できる可能性を読み取りながら，気持ちを引き出す言葉や夢中になれる場を工夫し，幼児の意欲や自信を高めていくことが大切だと考える。

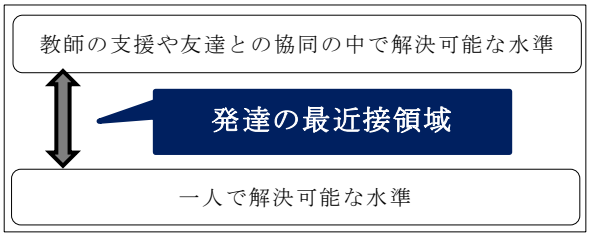


図３　発達の最近接領域

保育の中では，教師がこれまで経験したことのなかった幼児の面白く楽しい考えや発想に出会うことがある。教師の意図や予想を超える幼児の表現に驚くこともある。イタリアの教育思想家であり教育実践者のローリス・マラグッツィの「でも，百はある」の詩（田辺敬子訳）の中で「子どもには百とおりある。子どもには百のことば　百の手　百の考え（中略）それからもっともっともっと・・・(後略)」とある。一つの同じ考えや表し方等ではなく，百人いたら百とおりの考えや表し方等がそれぞれにある。幼児の想像力や表現力も限りなく多様だと捉え，その芽を大人の主観的な考えや表現の枠に収めてはならないと考える。

先述の「幼児の表現」の中で，先ず教師に求められるものは，今ある姿や実態を見つめることから始まるだろうと述べた。表面や一場面の姿だったり，これまでの固定概念や先入観での尺度で，幼児を捉えてはいけないことである。しかし，それも含めて，森上史朗(1998)は「長い年月のなかで，ものを見たり，考えたりする“枠組み”を形づくってきており，それを完全に捨て去って無構造で子どもや保育を見ることはむずかしい」と述べている。続けて「そこで，自分の見方，考え方(先入観や枠組み)にはクセがあることを自覚し，目の前の子どもの姿とすり合わせて検討する姿勢が大事」と述べている。教師は自分自身の保育観を自覚化した上で実践を重ね，経験による学びを積み重ねながら保育観を検討・修正・再構成していくとよいと考える。

7　振り返りや記録からの理解と支援

保育や幼児の筆記記録は勿論，教師間の情報交換や，写真やビデオ記録での分析による振り返りの場が，幼児を捉える目を多様にするために重要だと捉え，実践していこうと考える。そして，エピソード記述(表５)の記録方法を用いて，心の動きに迫りながら幼児を探究し，見方や受容の幅を広げ，その子らしい多様な表現を理解し支援していこうと考える。

また，幼児同士の活動後の振り返りの場を設けて，考えや思いを言葉や表情で伝え合い，共感し合う楽しさを味わいながら，友達との関わりを通して互いをより知ったり，情報や刺激を受ける体験ができるようにしたいと考える。

表５　エピソード記述(森上・柏女(2000)参考)

ある特定の具体的場面を，そこに関係する人物の行動や関わりの展開に留意して，詳しく記述したもの。立ち上がる問いについて，その問いとの関連の中で，その現象の何らかの「意味」が見えてきた時に浮かび上がり，描き出される。保育実践から立ち上がる様々な問題についてその本質に接近していく為の質的研究の資源の一つとなる。

Ⅳ　検証保育

検証保育指導案

平成３０年１２月１８日（火）
男児１６名女児１２名　計２８名
保育者　仲宗根　ひろみ
指導助言者　岡花　祈一郎

１　主な活動名　　好きな遊びを思い思いに楽しもう

２　ねらい　　○友達とイメージを共有する中で意欲を持って遊び，自分らしく思い思いに表現する嬉しさや楽しさを味わう。

３　内容
・好きな遊びを，友達と十分に楽しむ。
・見たことや感じたことを動きや言葉，あるいは形で表現して楽しむ。
・自分や友達の良さを感じる。

４　活動設定の理由

幼稚園での日常の生活や遊びの中で，見たことや感じたことを素朴ながらも動きや言葉，あるいは形にしたりと様々な方法で表したり，表そうとしている幼児の姿が見られた。興味・関心や好きなことは幼児それぞれ違っていて，一人一人がそれぞれに自己を表現できるものや場所，そして表現の仕方があると感じた。

そこで，幼児が見たこと感じたことを伸び伸びと表現するようになるには，普段の生活から興味を持ったことや，好きな遊びを通した安心感の中で，教師の理解や適切な支援を受けることによって，その子らしく著しく育成されるのではないかと考える。また，幼稚園教育要領解説で「感動体験が幼児の中にイメージとして蓄えられ，表現されるためには，日常生活の中で教師や友達と感動を共有し，伝え合うことを十分に行えるようにすることが大切」とある。そのことから，遊びや活動の振り返りの場を設定して，楽しかったことや感じたことを伝え合い，相互に受容することで，表現する意欲や力が高まるだろうと考え，本活動を設定した。

（１）教材観

時季や幼児の興味に沿った，また，時期や発達に応じた体験や遊びが展開できるように，幼児の動きを見ながら遊具や教材，材料等を準備したり，時間の保障や，場や空間をつくり環境を構成していこうと考える。試行錯誤しながら夢中になり，そして遊びの深まりが増すことで，更に心動く体験が積み重ねられ，新しい発見や力が表現への意欲となるだろうと考える。例えば昆虫観察では，分かったことを友達同士で伝え合ったり一緒に調べたりする中で，好奇心や探究心，優しさと共に責任感が育まれる。そして，そこから新聞作りや粘土や折り紙での造形遊び等，多様な表現への広がりや深まりがある。お店屋さんごっこでは，友達とイメージを共有しながら，更に楽しくなるように個々のアイディアや発想を活かして作ったり，言葉や動きによる様々な表現を楽しむことが増える。このように，幼児の自発的な活動としての遊びでは，思い思いに表現する嬉しさや楽しさを味わえ，遊びが展開していく面白さを感じることができる教材が溢れていると考える。

（２）幼児観

興味ある好きな遊びの中で，自己を表現する楽しさを味わってきた幼児が，9 月頃から友達関係や遊びの幅も広がりを見せ，他者を意識した表現へと多様に変化してきた。遊びのイメージを共有する中で友達の良さも感じつつ，それぞれが表現する喜びや楽しさを味わっている姿が，検証保育期間を通しても増えてきた。

そこで本時では，引き続き幼児にとって魅力ある環境を整えながら，受容される喜びの中で一人一人が伸び伸びと表現する楽しさを味わい，相互に良い刺激となり気持ちを育んでいける活動にしていきたいと考える。

（３）指導観

幼児が安心して伸び伸びと心地良く表現できるように，教師や友達との受容される関係性づくりや，場や時間等の環境づくりを心掛けていきたい。その中で，幼児が心動かしながら自分なりに表現する楽しさを味わっている姿や，試行錯誤しながら自分らしく表そうとしている過程を理解し見守ったり，さらに意欲や力を引き出していけるよう言葉をかけたり後押ししながら関わり，支援していきたい。

（4） 活動計画

	日程	ねらい	主な活動内容	◎教師の援助　★環境構成
1	6月 ｜ 7月	○好きな場所や遊びを見つけ，友達と楽しむ。 ○自分なりにイメージを実現したり，そのものらしく作ったり，試して遊ぶ。	虫捕りや観察・シャボン玉・色水遊び・水遊び・泥遊び・ブロック・折り紙・粘土・マルチパネ・お家ごっこ・空き箱の製作活動等	◎場面に応じて教師が仲介し，友達と遊ぶ楽しさを味わわせながら，友達間をつないでいく。 ◎自分のしたいことの実現に向けて考えたり，試している姿を認め見守ったり，心の動きに応じていく。 ★活動の様子を見て，必要な遊具や素材を準備したり，数を増やす等，自分で考えたり試したりして遊べるようにする。
2	9月 ｜ 10月	○考えや思った事を友達に伝えて遊ぶ。 ○友達と思いやイメージを出し合い，遊びを進める楽しさを味わう。	虫捕りや飼育・石鹸遊び・色水遊び・縄跳び・フープ・竹馬・サッカー・砂遊び・製作活動(糸電話，こま)等	◎力を発揮している事や，面白い発想で表現しているところを見逃さず認める。また周りにも知らせ，友達の動きや考えにも関心を持たせる。 ★目的を持てたり，友達と思いやイメージを出し合っていけるよう，活動内容の工夫を図ったり，場や時間の確保を行う。
3	11月	○目的や目標に向かって，自分の考えや力を十分に出す。 ○友達と協力したり，イメージを合わせて遊ぶ。	虫捕りや飼育・粘土(虫作り)・リズム遊び・運動会ごっこ(リレー，綱引き，玉入れ)・運動遊び・製作活動等	◎遊びの中でやりたい事や方法，場所等の考えを互いに言葉や動きで確認し，友達とイメージを合わせて遊びが進められるように援助する。 ★やりたいことや表したいことに，じっくり取り組めるよう，遊びの空間や場を幼児と整理したり，更に発想が広がるよう教材を工夫したりする。
4	12/6 (木)	○自分の思いを伝え，友達の考えも受け入れながら共通のイメージで遊ぶ。 ○身近な自然物に触れたり，遊びの中へ取り入れて遊ぶ楽しさを味わう。	運動遊び・鬼ごっこ・運動会ごっこ・ヤゴ捕り・虫の観察や飼育(カバマダラ)・自動販売機遊び・お寿司屋さんごっこ・手作りペープサート・自然物を使っての製作遊び(葉，石，枝)等	◎自分の考えを伝えるだけではなく，友達の話を聞いて話し合ったり，折り合いをつけながら，共通のイメージを持って遊ぶ喜びや，遊びを進めていく楽しさや，自信につなげていく。 ★園庭や地域を散策したり，遊びの中で身近な自然や草花の様子に興味や関心が持てるように，絵本や図鑑を用意したり，掲示の工夫を図る等，場をつくっていく。
5	12/7 (金)			
6	12/10 (月)	○気持ちや考えを，自分なりに表すことを楽しむ。 ○思いやアイディアを出し合い，相談しながら遊びを進める楽しさを味わう。	運動遊び・鬼ごっこ・運動会ごっこ・虫の観察や飼育(テントウムシ，カバマダラの幼虫，ヤゴ)・自動販売機遊び・お寿司屋さんごっこ・見立て遊びペープサート・自然物を使っての製作遊び(葉，石枝)・クリスマス製作等	◎イメージに向かって，相互の考えやアイディアを受け入れながら遊ぶ楽しさが味わえるように，側で見守ったり，参加して言葉をかけながら援助する。 ◎それぞれの表現する意欲やその過程を大切にする。 ◎活動の振り返りの場では，気持ちや考えを自分なりに表したり，友達の考えや表現にも触れて，友達間をつないでいく。 ★興味や関心があることに夢中で取り組めるように，幼児の動きを見て，物的・空間的環境を構成する。
7	12/11 (火)			
8	12/13 (木)	○イメージを共有して遊ぶ楽しさを感じる。 ○友達との遊びの中で力を出したり，安心して思いや考えを自分なりに表したり，形にする。	運動遊び・鬼ごっこ・虫の観察や飼育(テントウムシ，カバマダラの幼虫ヤゴ)・見立て遊び・お寿司屋さんごっこ・ペープサート・自然物を使っての製作遊び(葉，石，枝)・クリスマス製作等	◎感じたことを自分なりに表したり，形にしながら，楽しんでいる姿を受け止め，共感する。 ◎それぞれの表現する意欲やその過程を大切にする。 ◎活動の振り返りの場では，気持ちや考えを自分なりに表したり，友達の考えや表現にも触れて，友達間をつないでいく。 ★興味や関心があることに，夢中で取り組めるように，幼児の動きを見て，物的・空間的環境を構成する。
9	12/14 (金)			
10	12/17 (月)	○友達とイメージを共有しながら，思い思いに心地良く表現する楽しさを味わう。	運動遊び・鬼ごっこ・リレー・サッカー・虫の観察や飼育(カバマダラの幼虫・ヤゴ)・新聞作り・粘土・ケーキ屋さんごっこ・見立て遊び・お寿司屋さんごっこ・ペープサート・自然物を使っての製作遊び・クリスマス製作等	◎幼児の話を丁寧に聞き，イメージやこだわっていることを大事にする。そして，友達と共有しているイメージが実現できるように，方向を整理したり，場面に応じて様々な教師としての役割を果たし，援助していく。 ◎活動の振り返りの場では，気持ちや考えを自分なりに表したり，友達の考えや表現にも触れて，友達間をつないでいく。 ★興味や関心があることに，夢中で取り組めるように，幼児の動きを見て，物的・空間的環境を構成する。
11 本時 公開保育	12/18 (火)	○友達とイメージを共有する中で，意欲を持って遊び，自分らしく思い思いに表現する嬉しさや楽しさを味わう。	竹馬・縄跳び・ホッピング・鬼ごっこ・サッカー・固定遊具・鉄棒・虫の観察や飼育(カバマダラの幼虫や蛹，ヤゴ)・新聞作り・粘土・折り紙・ケーキ屋さんごっこ・見立て遊び・お寿司屋さんごっこ・ペープサート・自然物を使っての製作遊び・クリスマス製作等	◎感動や気付きから表そうとしている幼児の姿を受け止め，思いを引き出したり高めたりする言葉をかける。 ◎必要なものがあるならば一緒に準備したり，時に表したい形や方法を整理する等，幼児が伸び伸びと表現することを楽しめるように援助する。 ◎活動の振り返りの場では，気持ちや考えを自分なりに表したり，友達の考えや表現にも触れて，友達間をつないでいく。 ★興味や関心があることに，夢中で取り組めるように，幼児の動きを見て，物的・空間的環境を構成する。

（５）本時の指導案

指導案平成30年12月18日(火)	わかくさ組　男児16名女児12名　計28名　保育者：仲宗根ひろみ		
＜主な活動名＞	好きな遊びを思い思いに楽しもう		
研究仮説	生活の中の心揺さぶる体験や友達との活動において，幼児の柔軟で個性的な発想を認めると共に，エピソード記述を通して振り返り，その子らしい多様な考えや思いを理解し支援することで，幼児は安心感や自信を持って，見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現するようになるであろう。		
ねらい	○友達とイメージを共有する中で，意欲を持って遊び，自分らしく思い思いに表現する嬉しさや楽しさを味わう。	内容	・好きな遊びを，友達と十分に楽しむ。 ・見たことや感じたことを動きや言葉，あるいは形で表現して楽しむ。 ・自分や友達の良さを感じる。

時間	○予想される幼児の姿	◎教師の援助　★環境構成	評価項目(幼児の姿)
8:15	○登園する ・朝の挨拶を交わす ・所持品の始末をする ・名札を付ける	★戸や窓を開けて新鮮な空気の入れ換えと，安全確認を行う。 ◎名前を呼んで笑顔で挨拶を交わし迎え，会話しながら気分や健康状態を把握する。(視診・触診) ◎身の回りのことができているか確認したり，知らせる。	◇表情明るく，喜んで登園しているか。
8:20	○朝の活動を行う ・草花への水やり ○自発的な活動としての遊びを楽しむ ≪戸外≫ 縄跳び・フラフープ・竹馬・リレー・鉄棒・ホッピング・滑り台・色水遊び・砂遊び・虫捕り(カバマダラの幼虫・ヤゴ等)・サッカー・マルチパネ等 ≪室内・遊戯室≫ 虫の観察や世話・自由研究(新聞作り)・粘土遊び・ケーキ屋さんごっこ・おもちゃ屋さんごっこ・お寿司屋さんごっこ・製作遊び・跳び箱・折り紙等 ※雨天時は，室内遊びのみ	★生活の流れを絵や文字で表示する。(視覚的情報) ★ジョウロを取り出しやすい場所に用意する。 ◎植物の生長や変化に気が付いたり，優しさや責任感が育まれるようにする。 ★興味や関心があることに，夢中で取り組めるように，幼児の動きを見て，物的・空間的環境を構成していく。 ◎感動や気付きから表そうとしている幼児の姿を受け止め，思いを引き出したり高めたりする言葉をかける。 ◎必要なものがあるならば一緒に準備したり，時に表したい形や方法を整理する等，幼児が伸び伸びと表現することを楽しめるように援助する。 ◎遊びや活動への興味や幅が広がったり，友達との関わりが深まっていけるように援助する。 ◎思いを伝え合っている時は見守り，うまく伝えられない時は少し言葉を添えたり，伝える方法を知らせたりして，互いの思いを繋いでいけるようにする。 ◎安全面に常に注意しながら遊びを見守ったり，一緒に遊んだりする。	◇やりたいことを意欲的に楽しんでいるか。 ◇自分なりに表現する嬉しさや楽しさを味わっているか。 ◇友達とイメージを共有しながら遊びを進めているか。
10:00	○片付ける ・遊びに使った物を元の場所に戻す ・手洗い，うがい	★片付けしやすいように工夫する。(絵表示する・動線を考えて，遊具棚やカゴを配置する) ◎片付け忘れていたり，後回しにしている幼児には声をかけたり，教師も一緒にやって見せて気付かせていく。	
10:20	○手話ソングを楽しむ ・「赤鼻のトナカイ」 ・みんなで朝の挨拶 ・日付や天気、出席状況の確認をする	★グループごとに座れるよう，床に色別に印を付けておく。 ◎学級のみんなで歌ったり触れ合ったり，ゆったりと過ごす等の時間をつくり，学級や仲間意識を高めていく。	
10:50	○今日の感想(振り返り) ・楽しかったことや気付いたことやみんなに知らせたいことを伝え合う (学級→グループ)	★伝えたい思いを十分に出せるように，場の持ち方を工夫する。(全体の後はグループでの伝え合い・言葉を補足する等) ◎気持ちや考えを自分なりに表したり，友達の考えや表現にも触れて，友達間をつないでいく。 ◎今日の出来事や楽しかったことを振り返り，明日以降の遊びや活動への期待へとつなげていく。	◇感じたことや思いを，友達と伝え合うことを喜び，場を楽しんでいるか。

評価の観点	・幼児が夢中で遊びや活動に取り組める場や空間，時間の確保はできていたか。 ・教師が幼児の考えや思いを受容し，表現する喜びや意欲を高められる言葉かけや支援をしていたか。 ・幼児と共に，教師自身も楽しんで遊びや活動に取り組んでいたか。

5　検証保育研究会

（1）保育者の反省

・どの子もそれぞれが得意とすることで発揮している姿があり，成長を感じた。
・同じ対象物や教材でも発達の時期によって関わり方や関心度，表現の仕方が違っていた。
・幼虫への興味から，粘土遊びに繋げたり，新聞作りに繋げたり，お家を作る製作活動へ繋げたり，いろいろな表現の方法へ繋がっていた。
・友達の様子や動きが後押しとなって，やってみようという気持ちに変わり，友達の持つ力を感じた。
・振り返りの場面は，言葉の表現や伝え方があり楽しさを感じたが，うまく進めることができなかった。

（2）意見及び感想

・援助の細やかさが感じられたのと，友達同士の関わりを意識した言葉かけがあった。
・教師の少ない声かけで子供達が動いていた。これまでの生活の積み重ねもあり，能動的に動いていた。
・小学校教諭にも公開保育で見てほしい。幼児の発達段階を知り，就学へ向けての繋ぎの部分が分かる。
・クラスの枠を超え，園の教師全員で幼児全員を育てている。一人一人の育ちを見ている。
・文科省が掲げる教育の最終的なゴール(方向性)を意識して保育をしてほしい。（自立・協同・コミュニケーション）
・対話的な学びを幼稚園で培っている姿が見られた。

（3）指導助言（琉球大学准教授 岡花祈一郎）

・遊びのバリエーションがすごく多かった。自分の考えを自分なりに表現しようとしていた。
・これまでの経験と遊びが繋がっていた。(運動遊びの経験から修行ごっこ・泥水遊びから料理修行等)
・友達の遊びを見て遊びが広がっていく様子があった。
・遊びだけど科学的。仮説を立てて実証していこうとしている姿は，学習の原体験と捉えられる。
・アイディアがアイディアを生み，試行錯誤（仮説・検証）と協同が見られ，とても豊かな実践だった。
・個々の遊びの没頭度が高かった。
・「いいこと考えた！」「いいこと思いついた！」の言葉を一番耳にできたのは良かった。
・話し合いの場で，誰に伝えたいかを意識させるのも必要。
・保育者は，幼児の思いや言葉に対する受け止め方にもっと様々な形のバリエーションが必要だった。
・幼児の語りを引き出す保育者の前のめりさが弱かった。

Ⅴ　仮説の検証

研究テーマに基づく保育実践を重ねて，振り返りやビデオ記録，エピソード記述を通して分析し，幼児の姿やその変容をもとに検証する。その対象を「学級全体」と「抽出児M」とし，幼児の自発的な活動としての遊びでの様子や振り返りの場での様子に視点をあてる。教師の表現への理解や支援・環境構成や保育の工夫を波線「〰〰」，幼児の心の動きや表現する姿・変容を二重線「＝＝」で示す。

1　具体仮説１の検証

教師が幼児との生活を大切にしながら，一人一人の思いや考えを認めていくことで，幼児が受容される喜びを感じ，安心して自分らしさを表現していけるであろう。

６月―７月（検証場面①）

学級全体　抽出児M

≪背景≫

抽出児Mは，６月に東京から引っ越してきた途中入園の男児。２歳下に妹がいて４人家族。３歳から幼稚園での集団経験がある。引っ越してきて，新しい環境での生活に戸惑いがある様子。

≪エピソード≫

教師の問い掛けには答えるが，表情が非常に硬く，なかなか目を合わせない。転入児ということで，園のことを教えたり一緒に遊んで仲良くなりたいと思う他児も多く，関わろうと歩み寄るが，抽出児Mはその場からそそくさと離れてしまう。教師が仲立ちして誘っても，遊ぶどころか場の共有もしなかった。ある日，園庭で蝶やトンボ捕りをしている他児と，私が話をしていると「あのね，クロアゲハはね・・」と，蝶のことで知っている知識を語りだした。立ち止まることなく近くをウロウロしながらである。話し終わると離れていく。次の日は「あのね，オニヤンマはね・・」と，今度はトンボの話。呼び止めて詳しく聞こうとしても，一方的に話して離れていく。相手が聞いていようがなかろうが関係ない様子に思えた。６月後半，近くの公園でセミ捕りを行った。抽出児Mは，他児がやる様子を傍で見ているだけだった。虫に興味があり知識はあるが，触るのは苦手だと母親から聞いた。夏休み前には，園庭で虫捕りをする姿があった。そこで場を楽しむ友達もできた。捕まえたトンボを手に持って見せてくれた時は「すごいM児！やったね」と一緒に喜んだ。少し恐々だったが嬉しそうな表情だった。

≪考察≫

緊張が強いこともあり，出来るだけ話をして打ち解けたり，一緒に行動する中で友達との繋がりが持てるようにと考えた。会話は好きなようで，生活を共にするうちにどんどん増えた。少しずつ私に対しての安心感が持てたと考える。でも他児が近付くと離れるし，友達との関わりが苦手だと感じた。そんな時に，蝶やトンボの知識や情報が豊富なことが分かった。昆虫好きだと捉え，その話題から友達と繋がればと思ったが教師の意

図通りにいかない。なんだか興味深い子だと感じた。セミ捕りは見ているだけだが，関心の表れだったと考える。振り返ると，私の目の届く所に常に抽出児Mの姿があった。離れてても私の姿を捉えつつ，周りの他児の姿もしっかり見ていたと考える。それが虫捕りへの挑戦に繋がったと考える。できたことや嬉しさを一緒に喜べたことは，更なる力や自信に繋がると考える。活動の幅が少しずつ広がったのと，園生活の安心感や安定の気持ちも重なり，笑顔が増えたと考える。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

虫が怖かった。セミもちょっと怖かった。でも捕まえようかな？と思った。網までは出来ていたけどね。トンボを手で捕まえた時は，嬉しかった！挑戦した！

９月―10 月（検証場面②）

学級全体　抽出児M

≪背景≫

折り紙に絵を描いて「友達にプレゼントしたい」と家で用意し持ってきた。（友達に？）抽出児Mの突然の行動に，私は嬉しい気持ちよりも驚きが強かった。（渡せるかな？大丈夫かな？）と思ったが，「きっと，友達喜ぶね」と笑顔で見送った。

≪エピソード≫

抽出児Mは配り始めるが，ほとんどウロウロしていた。でも，目線は他児の様子を追っていた。何分か経ち「行ってきた！」と戻ってきたので，見ると少ししか渡せてなく，沢山の折り紙が残っていた。しかし，抽出児Mの顔は笑顔で溢れていた。しばらくして，A児やB児やC児が慌ただしく製作に取り組んでいた。聞くと「これ描いたら，みんなにプレゼントする！」と言って，四角に切った牛乳パックに絵を描いた，カード作りに一生懸命だった。私はすぐに「もしかして，抽出児Mから折り紙のプレゼント貰った？」と聞いた。「そうだよ」と頷きながらも手を休めない三人の姿があった。９月後半，生活グループの名前を決める為の話し合いを行った。それぞれが提案を出して盛り上がるグループ，友達が提案したものに「いいね」と同意して短時間で決めたグループ，提案は出るがそれぞれが譲らずに一つに決まらないグループと様々な様子があった。抽出児Mのグループも楽しんで話し合っていた。抽出児Mもこの日は発言が多く，提案したり「〇〇は何がいい？」と聞きながら，名前を決めていた。

≪考察≫

折り紙のプレゼントは，緊張と友達との関わりの少なさから声を掛けるタイミングが掴めなかったのだろう。でも，笑顔で戻ってきたことに私は驚いた。少ししか渡せなかったのになぜ？と考え，振り返ってみた。私には「ウロウロ」のように見えたが，抽出児Mなりにタイミングを計っていたのだと考える。私は「少ししか」と捉えたが，抽出児Mにとっては「少しでも渡せた」ことだったと考える。一歩踏み出したことで，友達との繋がりが持てた，あるいは共有できた場が持てたことが嬉しかったのだと考える。私の「きっと，友達喜ぶね」の一声と，笑顔で送り出したことが，渡す勇気の後押しとなったのだと考える。そこで，これまでの抽出児Mを改めて振り返ってみた。最初は，昆虫の知識を一方的に話すだけで，友達との関わりを持たないことに心配した。でも，あれも抽出児Mにとって（仲良くなりたい）という思いからの，他児へ向けての表現だったのだろうと捉える。友達への関心がなかったわけではなく，自分の知っていることや好きなことで，友達との繋がりを持ちたい表れだったと考える。折り紙のプレゼントも同様だと捉える。しっかり自分らしく，自分なりの方法で表現していたのだと考える。グループの名前を決める話し合いでは，抽出児Mが楽しく会話しながら進めている姿があった。一つのことや共通のことに向かって，みんなで考える場を意図的に取り入れることも必要だと，抽出児Mや学級全体の様子から見ても分かる。友達へのプレゼント作りでは，一人のとった行動や思いが，周りの気持ちも動かす力になることを感じた。心揺さぶられる体験の場や，友達との関わりの場の大切さが感じられた。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

折り紙が出来なかったので，うまくなるようにいつも作っていた。うまく出来たから，みんなにあげようと思った。名前が分からないし，誰に渡していいか分からなかった。少し渡せて嬉しかった！

１１月（検証場面③）

学級全体　抽出児M

≪背景≫

グループの名前を相談して決めたことが，抽出児Mにとって大変心躍る嬉しい活動だったようで，その決まった全グループ名を用いて，家で歌をつくってきたという報告があった。

≪エピソード≫

「むらさきのないにじはあるのかな　夜にはほしがキラキラと　きん色のほしはあるのかな　地球にダイヤはあるのかな　夜にはながれぼしがキラキラキラキラ　願いごとを叶えてくれる」と，作った曲を学級のみんなに披露したいと本人の強い希望により実現。緊張の中の披露だったが沢山の拍手をもらった。そこから担任の後押しもあり，今度は園全体の集会で披露することになった。積極的に準備を手伝ったり力を貸す友達がいて，本番は，極度の緊張の中だがアンコールも受けて，無事に心地良く披露することができた。

≪考察≫

何がきっかけとなって興味を深め，アイディアを生み出し，行動を起こさせるか予測がつかず，面白さを感じる。友達との関わりや親しみが増したことで，表現の枠も広がっている。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

歌を作りたいなと思った。今までもやったけれど，難しくてうまくできなかった。この歌は１番，うまくできた。嬉しかった！最初は緊張したけれど，歌っているうちに緊張しなくなった。

以上の学級全体と抽出児Mの姿やその変容から，具体仮説１の手立ては有効であったと考える。

２　具体仮説２の検証

心揺さぶられる体験の場や友達との関わりの場を工夫することで，幼児は取り巻く環境への親しみや興味が深まり，見たこと感じたことを思い思いに表現することを楽しむであろう。

１２月６・７日（検証場面④⑤）

≪背景≫

学級全体

室内では，それぞれがアイディアを活かした製作遊びが盛んになってきた。廃品コーナーからケーキの空き箱を見つけて，ケーキ作りを始めた幼児がいた。後から，ケーキ作りに興味を示した数名の幼児が合流して，一緒にケーキ作りの場を楽しむ姿があった。他には，お寿司屋さんを開いたり，マクドナルドの自動販売機を作って友達と遊ぶ幼児もいた。

抽出児M

先日は，蝶の幼虫やテントウムシの蛹を見つけて観察や世話をすると意気込んでいた。自然コーナーで，箱をつなげたりティッシュや葉を敷いて「ここは寝る所」「遊ぶ所」等と，友達と幼虫の快適な住み家作りを楽しんだ。振り返り集会では「幼虫や蛹を観察して，分かったことを書いて自由研究のようにしたい」と発表した。絵を描いたり，気付きや調べたことを書き出す，新聞作りをやりたいと，意欲的だった。

≪エピソード≫

学級全体

共通のイメージを持って，小集団で遊びを進めていく姿が多く見られるようになった。製作遊びでは，最初は友達の見様見真似で始めても，徐々に自分なりにアイディアを表しながら進めたり，材料からイメージを膨らませて工夫して作る姿が見られた。ケーキ作りも時間と共にケーキの種類や形も多様になり，クリームの色を変えたり，果物をのせたり工夫が見られた。そうなると材料も沢山必要になってくると私は考え，使いそうなものをできるだけ集めて準備した。作ったものを，遊びの中へ取り入れ楽しむ姿も見られた。お寿司屋さんごっこや自動販売機遊びでは，店員とお客さんとの言葉や動きでのやりとりを自分達なりに楽しみながら遊んでいる姿があった。ケーキ作りをしていた幼児も作っているうちに「ケーキ屋さんをやろう！」という話になり，看板やメニュー表作りに取り掛かった。私や担任も幼児の思いを汲んで更に盛り上げようと，エプロン作りの手伝いをしたり，テーブルクロスを準備する等，一緒になって楽しんだ。

抽出児M

D児・E児・F児・G児・H児と，大好きな虫の話で盛り上がったり，折り紙でいろいろな昆虫の作り方を教えたり，誘い合って楽しむことが増えた。先日も「とうわたの葉にテントウムシの蛹がいる！」という発見をして大興奮の様子だった。この日も，虫の観察を欠かさない。私は，一昨日に出た「自由研究」の発想がずっと気になり，その後の行方に胸躍る思いでいたので，タイミングをみながら「自由研究はどうする？」と尋ねてみた。「あ，やるよ！」という言葉。「何か手伝うことがあったら言って」と透かさず伝えると，考えた後に「写真を撮ってほしい，貼るから」という返答だった。すぐに対応し抽出児Mの元に戻ると，担任から画用紙を貰って綴ろうとしていた。そこからD児やG児との合作で新聞作りが始まった。この日は写真を貼り，幼虫と羽化した蝶を絵にした。翌日は，観察や世話をしてみて気付いたことを書き足し，それらを振り返り集会で学級の友達に紹介した。「ケースがウンチだらけだった」「パンダと一緒で，食べた物と同じ色のウンチをする」「幼虫は，いっぱいの足でゆっくり歩く」と動きと共に伝えて，最後に「何か気付いたことがあったら教えて下さい」と付け加え，発表を終えた。

≪考察≫

学級全体

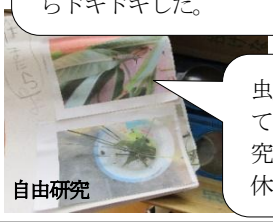
仲間と集まり，目的に向かって一緒に遊んだり取り組むことを非常に楽しむ時期とあって，他児からの情報や刺激も受けながら，イメージしたのを形に表し，遊びの中へ取り入れて楽しむようになった。グループ活動を意図的に取り入れたり，学級での話し合いの場を設けるようにしてきたことも，友達を理解できたり仲間づくりに繋がってきた。最初は友達の後に続いたり真似しながら取り組んだことも，そこから発想や表現意欲が高まり，考えたことを自分で工夫して表そうとする姿が見られた。同じケーキ作りにしても選ぶ素材も作る形も違っていて，それぞれのやり方で楽しく表す様子がある。じっくり考えたり試しながら形に表してきた遊びを楽しめたから，今度はお寿司屋さんや自動販売機等のように，作ったものを活かして多くの友達とのやり取りを楽しむ相手を意識しての表現遊びへと展開したと考える。

抽出児M

友達関係の広がりがあったことで，活動範囲や表現意欲への広がりも感じられ，見せたい，伝えたい，共有して楽しみたい思いに溢れていると感じる。友達に折り紙の作り方を教えながら，一緒に作ることを楽しんでいる。互いの良さを認め，気持ちが通い合える友達間の良い関係性が伝わってくる。好きな虫を通して，様々な表現を楽しむ姿があることに驚く。絵を描いたり，粘土で作ったり，動きを真似たり，気付きを言葉で表したり。そして「自由研究」。その提案から日が経っていて，気持ちに変化があったのではないかと考えると，私はどう聞くか迷った。抽出児Mの思いを実現させるために「手伝うよ」という言葉と共に，私なりにできることを買って出たことが，もしかしたら薄れかけようとしていた抽出児Mの表現意欲を，再び奮い立たせることに繋がったかと考える。また，室内の一画に自然コーナーを設け，生き物とじっくり関われる環境を作ったことも良かったと考える。集会の時のみんなへ向けた一声は，虫のことを少しでも多く知りたい思いもあるだろうが，みんなとも一緒に同じことを，共有し共感し合いたい思いの表れだったのだろうと考える。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

友達に作るのを教えた。同じことを真似してくれて面白かった。一緒に作ったのはちょっとドキドキした。初めて教えたからドキドキした。



虫好き！触れるよ。いろいろ書いて面白かった！夏休みの自由研究の練習みたい。もう１年生の夏休みは何をしようか決めている。

１２月１０・１１日(検証場面⑥⑦)

≪背景≫

学級全体

振り返り集会で「お客さんが２人だった」と，ケーキ屋さんを開いた幼児の小声での発表があった。私の「もっとお客さんに来てもらうには，どうしたらいいかな？」という問い掛けに「看板が見えるように大きくしたら？」と他児からの提案があった。それを受けて「大きな紙ある？」「長くて真っすぐな棒がほしい」等，ああでもないこうでもないと，この日は賑やかに看板作りから始まった。「あれ？紙がフニャフニャになってしまう」と困っているところは，私が補強の仕方を伝えながら，ケーキ屋さんの大きな看板を完成させた。

抽出児M

週明け，登園してすぐに育てている蝶の幼虫の変化に気付き「幼虫が大きくなっている！」「蛹になった！」と大興奮で報告があった。挨拶や所持品の始末も後回しで，まずは一緒に観察しながら生長を見守ってきた友達と喜びを分かち合う姿があった。それから，カバンを手早く片付けると「自由研究」の新聞綴りを首から下げ，足早に保育室から出掛けた。

≪エピソード≫

学級全体

私は，看板をどこに掲げればお客さんの目に付きやすいかを考えた。すると，Ｉ児とＪ児がその看板を持って「行ってくる！」と，宣伝へと勢いよく保育室を飛び出した。自分達で声を掛け，お客さんを呼ぶということだ。しかし，人前だと緊張して消極的になってしまうＩ児は，沢山の人がいる遊戯室の前で何度も尻込みした。Ｊ児も励まして声を掛けるが，なかなか中に入れず，行ったり来たりを繰り返す。そこへ見かねたK児が「貸して。行ってくるね」と，Ｉ児と交替して遊戯室に宣伝に入った。沢山の幼児の間を，声を掛けるまでは出来なかったが，看板を掲げながら二人は回った。その様子を少しだけ見て保育室に戻っていたＩ児は，戻ってきたＪ児やK児の晴れ晴れとした表情や話を聞き「K児，行こう！」と誘って，再び看板を掲げて遊戯室へ向かった。何度かためらう様子もあったが，半周回って宣伝することができた。まだ緊張が残る中で戻ってきたＩ児の後ろには，数名のお客さんが一緒に付いてきていた。そして，休むことなく慌ただしくケーキ屋さんが開店し，Ｉ児達はお客さんへの対応に追われ，これまでにない忙しさを見せていた。それから，ケーキだけではなく，私や担任がクッキーやマフィンを作って「こういうのもどうかな？」とアイディアを見せると「そうだね，かわいい！」と，それをヒントに葉やまつぼっくりも使って，商品の種類をどんどん増やしながら面白く賑やかに進めていた。その日の職員間の保育の振り返りで，ケーキ屋さんの話題となり「ケーキ皿があるといいね」「ディスプレイの工夫をしては？」等という意見が聞けた。翌日，幼児と相談してお皿やフォーク，持ち運ぶ為のワゴン等を準備したり，テーブルの中心はクリスマスのミニツリーやサンタの人形で飾り付けをした。そして，改めてケーキ屋さんを開店すると，友達同士で声をかけ合い，経験していく中で徐々にアイディアや工夫が広がり，明るく活気ある雰囲気のお店になった。

抽出児M

「蛹になった。休みの間になったみたい！」「カバマダラが大きくなった！」「新聞に書くから，今日は忙しい！」等と，他学級の教師や友達へ報告をして戻ってきたら，何だか慌ただしい様子。再び，幼虫や蛹の様子を友達と観察した後，二手に分かれて，それぞれやりたいことに取り組んだ。抽出児M達３名は，新聞作りは休んで「今日は家作りをする」と，大きな段ボールを幼虫や蛹の家にするということだった。担任から白い紙を貰って幼虫やカマキリ等の昆虫の絵を描き，切って段ボールの大きな家に貼っていく作業に夢中になった。途中で時間になったが「明日も続きをする」と大事に片付けていた。もう一方の友達グループは，粘土で幼虫と蛹を作ったと抽出児Mに見せに来た。「わー、すごい！」と，思わず言葉が出るほど関心を寄せ，友達が作った作品をじっくり見ていた。翌日は，友達と共に観察ケースの掃除から開始。蛹が落ちないように，丁寧に手分けしながら進めていた。その後は，友達みんなとケーキ屋さんに初めて訪れた。「チョコケーキ下さい」「お水下さい」「全部食べました」等と賑やかなお客さんとなり，友達が行うケーキ屋さんを楽しんでいた。

≪考察≫

学級全体

看板を掲げて宣伝に向かう発想が，私にはとても斬新で驚いた。こうやって積極的に行動する幼児の姿に嬉しさを感じたのと，友達とのケーキ屋さんをもっと楽しみたい思いが，それだけ強いのだということが読み取れた。人前での表現が苦手なＩ児が，友達との遊びや活動において喜びや楽しさを得ると共に，葛藤を経験していく姿が見られた。そんな時に，先に行動を起こした友達の言葉だけではなく，姿が後押しとなってＩ児はこれまでより一歩進むことができたと考える。心が動かされ，少しずつＩ児なりに自信や表現意欲が高まっていく様子が，表情や言葉，行動で分かる。何度もためらったが，努力した分，念願のお客さんが集まり，振り返り集会では「恥ずかしかった。でも，いっぱいお客さんが来てほしいと思った。１３名来た。いっぱい来たから，とても嬉しかった」と，みんなの前で気持ちを発表できた。教師も一緒に遊びに参加する中で，幼児の様子や動きを見ながら，遊びの発想を広げることに繋がるヒントを提案したり，相談しながら遊びを進めていくことは大事で，更に幼児の考えや工夫を

引き出すことに繋がったと考える。

抽出児M

私や担任以外の教師にも，積極的に話し掛けたり，思いや考えを伝えるようになった。多くの友達と，会話したり場を楽しむ姿が見られるようになった。「今日は忙しいんだ！」の言葉から，気持ちも充実している様子が分かるのと，抽出児Mにとって見たこと感じたこと全部が輝きに溢れているようにも感じる。次々にやりたいことを見つけ，発想が浮かび，表現することを楽しんでいる。そんな抽出児Mに少し変化を感じた。これまで，抽出児Mがアイディアの発信源となり遊び始めることが多かったが，他児が作った作品や，やっている遊びにも関心を示したことである。ケーキ屋さんにも参加した。振り返り集会後のグループでのお話タイムを設定するようになったことも良かったのだろう。どんなことをして遊んだかをそれぞれが伝え合う場を設けたことで，友達の遊びや行動，気持ちを直接知ることができ，自分の周りのことにも親しんで目を向け，興味や関心が広がったと考える。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

考えるのは好きだから・・伝えるのは緊張する。話してみたら緊張はなくなった。聞いてくれて嬉しかった。嬉しいから発表する。新聞が全部出来たら，発表したいな。

１２月１３・１４日(検証場面⑧⑨)

≪背景≫

学級全体

ビオトープ近くのテーブルの頭上には，日除けネットが張られていた。その片方は垂れ下げられ，ちょうど隠れ部屋のような空間となっていたので，そこを気に入って利用する幼児が多かった。この日もD児とG児が，小さな細い葉に止まる昆虫を発見し，観察していた。葉の先には抜け殻があることから，脱皮したばかりだと推測した二人は，驚きと発見した嬉しさで気持ちが高ぶっている様子だった。二人の間で「クビキリギス」ではないかとなり，周りにいた友達や教師にも気付いたことを伝え，不思議さを共感し合っていた。

竹馬やホッピング等の運動遊びに挑戦する幼児が増え，自分なりの目的や目標を持って，粘り強く頑張っていた。

抽出児M

友達が見つけた昆虫に興味を示し，額を寄せ合って一緒に観察したり，気付いたことや知っていることを伝え合う等，場を楽しんでいた。そこへN児とＪ児が「カバマダラの幼虫を探しても見つからない」と頼ってきたので，探す手助けを行った。しゃがんだり背伸びをしたり，葉と葉の間を覗き込むが，幼虫は見つからなかった。しかし，テントウムシを一匹見つけてさっと捕まえると，そっと二人に渡した。「すごい！」と喜び，容器に入れる二人に「息ができるようにしてね」とだけ伝え，再び友達との昆虫観察へと合流した。

≪エピソード≫

学級全体

私は「よく見つけたね！」「脱皮！本当だね、凄いね！」と驚きを素直に伝えた。見つけた昆虫が脱皮したばかりということで，D児とG児は集まった友達と共にお祝いの誕生会を開いた。シロツメクサを沢山摘んで，紙吹雪が舞うようにしたり，手拍子しながら誕生会の歌を歌って楽しんだ。これからも脱皮するごとに，誕生会を開くという話だった。「素晴らしい考えだね。素敵だね」と私が伝えると，「うん」と笑顔で返した。その日の振り返り集会では，脱皮した直後であろうクビキリギスの発見のことや，体のつくりや卵の産み方の特徴に関することや，観察する時の注意点等をたっぷりとみんなに二人で伝えた。翌日も，同じようにシロツメクサを集めていたが，今度はお家ごっこのスープ作りだった。すりこぎ棒で木の実を潰している幼児，容器に水を入れ運んでいる幼児，葉を摘みに行く幼児，それらを合わせてかき混ぜる幼児と，みんなで最初に役割分担したかのように，それぞれが思い思いに考えついたことを提案したり，取り入れたりしながら能動的に動いていた。シロツメクサを野菜に例えて「葉っぱ野菜」，いろいろな花もスープに入れるから「にじいろスープ」と，要所要所の命名の付け方の面白さもあった。H児が「太陽を入れて，熱々スープ！」と言ったので，透かさず私が「太陽で温める？あ！太陽レンジ！」と言うと「うん，太陽レンジ！」と，H児は気に入り何度も繰り返し言った。

運動遊びに，力を発揮しながら頑張る幼児が増えた。最近ではケーキ屋さんを楽しむことが多かったＩ児やB児も「今日はケーキ屋さんはお休みして，ホッピングの練習をする！」と練習に励んだ。私は，跳ぶ時の姿勢やコツを伝えながら「まずは5回」「１０回」と少し頑張ったら届きそうな目標を次々に提示しながら傍で励まし応援した。振り返りのお話タイムでは，Ｂ児がホッピングで目標の２０回出来たことをグループの友達に笑顔で，でも少し照れながら報告する姿があった。

抽出児M

友達と合流して，昆虫の誕生会を一緒に盛り上がり楽しんだ。その日の振り返り集会では真っ先に手を挙げて，脱皮した記念に誕生会を友達と行ったことや，それが非常に楽しかったことを報告していた。また，ビオトープの生き物観察を続ける中で「バラバラになったカニを見つけた。もしかしたら脱皮したものかもしれない」という発見や，私が小さな鳴き声が聞こえた件のことについて話を振ると「コオロギかな？って思う」と，まだ特定は出来ていないが疑問に思ったことも発表していた。翌日は，友達と一緒にお家ごっこをして遊ぶ姿があった。スープ作りでは「葉っぱ野菜」を摘むために，ポーターを押しながら園庭をあちらこちら回っていたり，細長い葉を探して「ネギあったよ！」と見立てて，友達を笑わせたりしていた。私が「この辺りにもあるよ」と似たような葉がビオトープ近くにあることを知らせると「ああ，ここにもあるんだけどね。こっちのは幼虫用やバッタ用なんだ」と言っていた。昆虫の為にあえて摘まなかったようだ。

しばらくして，F児と共に園庭の草の上に寝転がる姿があったので声を掛けてみると「気持ちいいよ」と日向ぼっこを楽しんでいた。小さなゴザがあることを思い出したので「ゴザがあるけど使う？」と差し出してみた。「いいね！お休みなさい」と笑顔のままで目を閉じた。「どんな夢を見ているかな？」とそっと声をかけると「おもしろい夢」「ご飯，大盛りの夢」「お笑いの夢」「お笑い大好き！」「一緒の夢」等と，次々に発想を言葉で表しながら，笑い合い楽しんでいた。

≪考察≫

学級全体

幼児がじっくりと遊べる環境をつくろうと，最初は日除けのことだけを考えてネットの取り付けを始めたが，少し想定の枠を広げて一工夫することで，面白く，幼児の胸が高鳴るような空間ができた。そのことで，幼児が安心しながら友達と場を活用でき，心弾む思いと共に多様な表現も出てきたのだろうと考える。自然物を遊びの中に取り入れて遊ぶ姿もよく目にすることから，豊かで適切な環境を整えながら支援していくことの大切さが分かる。脱皮した直後の珍しい昆虫を見つけたことや，その記念に誕生会を開くという考えや発想等で私自身も驚いたことや感動したことを直接幼児に素直な言葉で伝えることは大切だと考える。D児とG児が見つけた昆虫が「クビキリギス」かは図鑑を見ても私は特定できなかったが，二人が観察したり調べたことを否定せずに認め，共感しながら更に興味や探究心を深めていけるような関わりを優先したことが良かったと考える。前日の誕生会があって，翌日のスープ作りへ繋がっていく，その展開に面白さを感じる。様々なことを遊びに活かしていく姿に釘付けになる。

運動遊びで力を発揮したり，表現している幼児がいる。P児は，これまで人前で発表することがほとんど見られなかったのだが，跳べなかった跳び箱が跳べたことで自信がつき，またその嬉しかった気持ちをみんなと共有したい思いの表れだと捉える。その一つの自信が，大きく膨らみ，様々なことへの意欲や表現する楽しさへ繋がっていくことを期待したいし，そうなるであろうと考える。

抽出児M

大好きな昆虫のことや楽しかったことを，普段から積極的に周りの教師や友達に伝えたり発表することが多いのは，興味を持ったことや好きな遊びに没頭できる環境や時間が確保され，心許す仲間の存在がある安心感からだろうと捉える。生活や遊びの中での様々な感情体験を，教師や周りの友達とも共有したい思いが表れている。そのことで，周りの友達もM児のことをよく知り，関わる友達や頼ってくる友達が増えてきたと考える。友達からの刺激も受けて，周りのものや出来事への興味や関心をさらに強く表すようになってきたことも感じる。遊びや活動の幅の広がりから発見や気付きもあるが疑問を持つことも増え，それを知ったり，もっと分かりたい思いが言動に表れてきたことが分かる。友達と「今日はこんな遊びがしたいな」という目的を表して遊び始めたり，遊び始めているうちにその方向に遊び込んだりと様々な流れがあるが，互いに互いの表現を引き出していくような友達間のやりとりが感じられる。スープ作りでの見立て遊びも，次々に発想や言葉の表現が面白いし，相手の言動を受ける中で語彙が増えたり，アイディアが広がっていくことが分かる。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

他の遊びをしているうちに，お家ごっこみたいになって，そして完全にお家ごっこになっちゃった！楽しかった！珍しい葉っぱも見つけたかった。

１２月１７日（検証場面⑩）

≪背景≫

学級全体

生き物が好きな男の子グループの影響もあって，学級全体も日に日に小さな生き物への興味や関心が強くなってきた。友達の発言や発表に最後まで耳を傾けたり，疑問を感じたことを質問したり，傍で虫や虫捕りの様子を見る姿が多く見られるようになった。R児やS児は，この日は段ボールや空き箱でカバマダラの幼虫の家作りに一生懸命だった。N児は，以前はテントウムシを抽出児Mが捕まえてくれたが，この日は自ら探して，捕まえられたことがたまらなく嬉しい様子で「先生見て！テントウムシがN児の手から離れない」と言い，テントウムシを愛おしく微笑んで見つめる姿があった。D児は，蛾を見つけて育ててみたいと観察中。興味を示した友達に「蛾はね，電気や光っている所によくとまっているよ」と知っていることを伝えていた。C児は，網を片手にヤゴ捕りに挑戦していた。抽出児MやG児のやっている様子を傍で見て真似たり，教えてもらいながら場を共有し取り組んでいた。

抽出児M

友達グループと一緒に，ビオトープ近くのテーブルの上で，捕まえたヤゴの観察を賑やかに楽しんでいた。この日は風が強く，日除けネットを張るために使われている紐が大きく揺れて音が鳴っていた。その音が気になり何度も見上げて注目していたM児は，音が鳴る方へと近付いた。すると，同じくその音が気になっていたG児が「これ！キリギリスの鳴き声と同じだ！」と叫ぶと，M児は「ギリ，ギリ，ギリ・・。って感じだね！」と音を真似て伝え，二人で共感し合っていた。それから「今日は，かなり汚れそうだ」と呟いて，ビオトープでヤゴ捕りを再開すると「今日は，カバマダラに集中することー！」と大きく叫んだ。G児に透かさず「ヤゴでしょ？ここはヤゴしかいないよ」と笑いながら返されると，もう一度「ヤゴに集中することー！」と叫んだ。そして，鼻歌を歌いながらヤゴ捕りを楽しむM児の姿があった。

≪エピソード≫

学級全体

K児は，図鑑で蛾の種類を調べ「セスジスズメガ」だと名前が分かると，益々愛着がわいてきたようであった。調べた名前は紙に書いてケースに貼り，ケースの中には落ち葉や草や枝などを入れ，時々はツンツンとケースに振動を起こしな

がら蛾の様子を確認していた。移動する際も，一時も手放さずにいた。「蛾はね派手な飛び方なんだよ」と私を呼び止め，両手を大きく広げながら蛾の飛んでいる様子を表現していた。振り返り集会では，いつもより積極的に手を挙げ「蛾を捕まえた」「羽は枯れ葉に似ている」「樹液を飲む」等の，観察から気付いたことや調べたことなどを友達に紹介していた。

C児は，何度も諦めずにヤゴ捕りに挑戦していたが，抽出児MやG児のようにはいかない様子だった。「全然，捕まえられない！」「網の中に入らないけど・・何が悪いの？」と，少し苛立っている様子だった。私はE児の頑張りを認めると共に，思いをゆっくり聞きながら，最初に抽出児MやG児に教えてもらったことを一緒に確認し直してみた。そして，抽出児Mに「難しいようなんだけど，捕る時のコツはあるかな？」「場所は何処がいいのかな？」とC児にも聞こえるように聞いてみた。すると，抽出児Mは「あのね・・」と丁寧に一つ一つ教えてくれた。C児も傍で静かに話を聞いていた。そして再びヤゴ捕りを始めて，途中でT児も合流。二人で四苦八苦しながらも挑戦していく姿が続いた。やはり捕れない。「やってみると，思ったより難しいんだね」と私が言葉を掛けると「うん」と頷いていた。すると「ヤゴ，飼ってみたいのにな・・」と呟き，抽出児MやG児の方を見つめていた。私が「相談してみたら？」と後押しすると，すぐに抽出児MやG児の所へ走っていった。飼ってみたいから譲ってほしいという自分の思いを伝え，何度も頼んでいた。しかし，二人は簡単には譲らなかった。私も間に入って，心配であろう抽出児MやG児の気持ちも理解しつつ，C児の思いを代弁する等して繋げながら，友達が挑戦しようとする気持ちを一緒に応援できないかと頼んでみた。渋々だが了解が得られると，C児とT児は大変喜び，エサ作りを始めた。シロツメクサをすりこぎ棒で潰しながら水と合わせ「柔らかく潰す。だってその方が食べやすいでしょ？」と自分達なりに考えた上での一生懸命な行動だった。喜びと期待に溢れるC児とT児の姿が見られた。

抽出児M

「網を水の中に入れて，下(底)の土の所で動かすと煙が立つ。そしたらサッとすくうと，ヤゴが捕れていたりする。これを早くしないと，網からヤゴは逃げちゃう」と，友達にヤゴの捕り方を細かく教えてあげる姿があった。この日はいつもより捕れる回数も多く「運がいい！」と笑顔で言っていた。捕った後に友達のG児と観察していると「あ！」と叫んだ後「今，あごが出たね！」と少々興奮気味の様子だった。下顎が伸びて捕食する特性を分かっていての驚きで，好きで興味がある分，沢山観察して特徴を知っているし，図鑑やテレビで調べて知ったことも多いようだ。振り返りの時間の時に，ヤゴを育てることをみんなに発表したC児とT児に，水の中でのヤゴの様子や，飼う時の注意点等をアドバイスしていた。

≪考察≫

学級全体

昆虫が大好きなD児は，今度は蛾へ興味や魅力を感じ心動かされたことで，次々に考えつくままに積極的に行動を起こしていく様子が分かる。友達と情報を伝え合ったり，探究心を持って自ら調べたりする上で，さらにもっと知りたい欲が出てきたり，友達とも共有し合いたい思いが強くなったと考える。好きなものや得意なことを夢中で追究できる環境があり，仲間関係が築かれてきたことで，D児らしさが益々発揮されていることが分かる。D児や抽出児Mと仲良くなり遊ぶことが増えたG児の変容は，教師間でも話題になった。一方的ではなく相手の思いも受け止められたり，口調が柔らかくなってトラブルが減り，友達と笑い合い楽しむ姿が増えたのである。好きなことを一緒に共感し合える友達ができたことで安定し，人と関わる経験の積み重ねから，気持ちを調整しながら安心して自分を表現できるようになったと考える。アイディアや考えを出し合ったり，相互作用を引き出すコミュニケーションが取れる関係性が築かれていると考える。

C児は，友達の姿を見てヤゴ捕りに取り組んでみたもののイメージ通りにはいかず，試行錯誤を繰り返す姿があった。焦りから苛立ったり葛藤しながらも，抽出児MやG児への憧れやヤゴへの強い関心から，気持ちが途切れることなく頑張れたのだろうと考える。また，私が話を聞いてゆったり関わったり，再び抽出児Mからアドバイスをもらったり，途中からT児も合流して一緒に挑戦していったことが支えとなり，C児の気持ちを持続させることに繋がったのだろうと捉える。友達と関わりながら遊ぶことが好きなのだが，いざとなると口ごもってあまり主張できなかったり，消極的になってしまうこともあったC児が，その都度，自分の気持ちを言葉や行動で強く表現しながら，目的の実現に向けて頑張っていく姿があり驚いた。様々な感情体験の中で感じとり，思うことが強みとなり，次への活動の原動力となるのだと捉えられる。

抽出児M

一つ一つを意欲的に楽しんでいく姿に，周りも触発されていく様子が分かる。M児の生き物への熱意さえ感じる言葉や考えや行動が，周りの友達への魅力や刺激となって心動かしていると考える。興味あることに夢中になったり，自分のやりたいことに没頭するが，一声かけると立ち止まり，周りの友達にもやり方を詳しく教えてくれたり，知っていることを丁寧に伝えてくれる姿がある。小さな生き物との関わりから感動を沢山得て，生命のあるものを大切に思う気持ちから，相手に丁寧に伝えていく姿があるのだと捉える。また，楽しさだけではなく，生き物を育てることの難しさも経験していることから，心配の思いもあるのだろうと考える。こうして，周りの友達のことも意識させることで関わりが持て，表現するやり方や楽しさも広がっていったと考える。

≪抽出児Mの振り返りコメント≫

C児とT児にヤゴの捕り方と育て方を教えた。育てるのは難しいので，出来るのかな？と，ちょっと心配。僕も失敗して死なせたことがあるから。・・育て方，教えてあげたかった。

ヤゴ捕り

以上の学級全体と抽出児Mの姿やその変容から，具体仮説２の手立ては有効であったと考える。

３　具体仮説３の検証

幼児の自発的な活動としての遊びの中で，柔軟で個性的な表現や試行錯誤しながら表現していこうとする過程を理解し支援することで，幼児は自信や意欲を高めながら，自分なりの方法で伸び伸びと表現するであろう。

１２月１８日（検証場面⑪）

≪背景≫

学級全体

男の子の仲良しグループは，いつものように園庭のビオトープ周辺に集まり「今日は何の研究する？」と抽出児Mの言葉を受けて何やら相談。しばらくすると，D児は昨日捕まえた蛾の観察を始め，それから図鑑や紙を保育室から持ち出して，G児と一緒に蛾やカマキリの写し絵を描き始めた。それから，昨日の振り返り集会でのC児とT児がヤゴを飼育する話を聞いて，少し心配な気持ちと手助けしたい思いからだと考えるが，ヤゴの特徴や食べ物について書き出したものを二人に渡したいと私に申し出たので，一緒に渡しに行った。F児は，他のみんなに「おい，修行をするぞ！」と忍者になりきったような口調で号令をかけ，早く走って逃げる修行や，ぽっくり，雲梯，鉄棒等と次々に体を動かす修行を促していた。O児も「強くなるためじゃ」と声をかけて友達を促していた。終了後，E児が集合をかけて円陣を組むと「D児にジャイアンのミルクを飲ませよう！」という突然の提案を出した。すると，すぐに「いいねー」と意見が一致。みんな乗り気で「作戦だ！」の言葉と共に早速作業に取りかかった。まずはペットボトルを集めてから，それにビオトープの水を入れ，土や葉を次々に入れていた。それぞれが手探りで，アイディアが浮かぶと試してみるという様子だった。少しずつ水は茶色くなった。そもそも「ミルク」の色のイメージは白。そこが気になるO児が「白いものを探さないと！」と，声を掛けた。E児が「石鹸？」と答えると「いいね！」とO児が賛同して，おろし器で石鹸を削る作業が加わった。石鹸が削られ落ちていく様子に「雪みたいだね！」とE児は嬉しそう。削られた石鹸を少し加えて「特製ミルク」が出来上がり，みんなで笑みを浮かべながら，D児の所へ早速持っていった。

室内では，Ｉ児やB児達によるケーキ屋さんが久し振りに開店。以前よりも仲間も増え，ケーキ無料券や苺たっぷりのケーキ作りに，はりきって取り掛かっていた。その横では，新たに焼き肉屋さんが開店。前日はヤゴ捕りに一生懸命だったC児だったが，この日は朝から「焼肉屋さんをやる！」と宣言し，大変意欲的に準備を進めていく姿が目立った。

抽出児M

F児の熱く強い思いに「修行は嫌だ・・」と気持ちが乗らない様子だが，片手には折り紙で作ったクワガタのパペットを付けて，何だかんだで修行に参加。「そう難しくないけど‥」と独り言を呟きながら，次々と出される課題に渋々と取り組んでいた。しかし，その後のジャイアン特製ミルクの提案が出た時には表情が一転し，笑顔が溢れ出ていた。一目散に走っていき，ペットボトルを次々に探し出していた。友達がそれに水を入れたのを見て，シロツメクサを摘んで入れたり，他に材料としてボウルにビオトープの土を入れてきた。それから突然，保育室へ走ると，先程とは違う折り紙の手作りパペットに変えて戻ってきた。E児が楽しそうに石鹸を削る姿に興味を示し，しばらく見たり，削られた石鹸を手にする等していた。そして，D児の所へ出来上がった「特製ミルク」を持って行った時に「雪発射！」と振り撒いて見せていた。

≪エピソード≫

学級全体

「はい！ジャイアンの特製ミルク！」と言ってD児の前に差し出すが，突然のことに状況がすぐに掴めずにD児の反応は小さかった。その反応にみんなの動きも止まっていた。石鹸は入れたが量が少なかったのか，まだまだ茶色い。O児が「これを白くしないと，本物の牛乳と思わないよ」の言葉にみんなは納得し，再び作る作業が開始された。F児とH児は，ボウルにビオトープの水を入れ，草や石鹸を入れてストローでかき混ぜたり，息を吹きかけて泡立てていた。少し泡立ち始めると，二人で顔を見合わせ嬉しそうな表情を浮かべた。そして，かき混ぜながらF児が「料理の修行ね」「難しいでしょ？」とH児に，にこやかに話していた。E児は，石鹸の雪を降らせることに夢中になり「雪みたい！」と，繰り返し削って大興奮の様子。他の友達や教師にも見せる為に，石鹸とおろし器を持って園庭中を回って石鹸の雪を降らせて楽しんだ。それを見た友達も「貸して」と順番を競いながら石鹸の雪を降らせることを楽しんだ。しばらく経って，特製ミルク作りに戻ったE児達は，みんなで交互に石鹸を削ってボウルの中へ入れ「実験でどんどん白くなっていくね」と言いながら，手を休めずに削ったり混ぜる作業を続けていた。作業中，それぞれの閃きやアイディアをどんどん出したり，それに共感し合いながら和気あいあいと進めていく姿があった。しかし途中，やり方や順番，イメージのズレ等から言い合いになってしまうこともあった。互いに考えたり試したり，話し合いながら進め「苦いのを作って，悪い事している人にあげよう」「悪い人・・泥棒？」という話が聞かれた。それから，随分白っぽくなったところで終了して，みんなが見守る中でペットボトルに移し替えられた。「遂に出来た！ジャイアン特製ミルク！」「泡がいっぱいだ」「完成！」と，E児や抽出児Mが大きく叫ぶ声が響き渡った。O児は「特製ミルク」を持つと嬉しくて高らかに掲げたり，タオルで拭いて，大切で手放したくない様子。そして，「俺，１回，研究所に行ってくる」と言って慌ただしく走り去った。「特製ミルク」をもっと増やしたい思いから「もう１回作ろう！」とE児の掛け声で，引き続き時間まで作ることを楽しんだ。そしてE児が私に「今日、これみんなに紹介していい？」「発表したいから先生！絶対に俺のところ見てね！」と笑顔で伝えてきた。私は「わかった，楽しみ！」「すぐ，手を挙げてね」と答えて返事をした。

焼肉屋さん開店を宣言していたC児は，友達と一緒にやる初めての焼肉屋さんに嬉しくて心弾んでいる様子で，作る作業を頑張った。担任にも少し手伝ってもらったり，アイディ

アを聞いてもらいながら，段ボールで肉や網を作り，火は赤いペンでギザギザを描いて準備した。楽器も用意し，途中で使いたくなれば使ってほしいという発想だった。開店すると，「黒くなったら食べれますよ」「ホルモンもサイコロステーキもあります」等と接客対応も楽しく表現していた。私が「焼肉屋さんいいね！アイディアいっぱいで楽しそう」と声をかけたりお客さんになると「焼肉が大好きだからお店を作った」「１階は焼肉屋さん，２階はゲーム屋さん，３階はおもちゃ屋さん！」と弾む声で答えた。そして，ケーキ屋さんの様子も見て「次は、チケットも作る」と明日の予定も立てていた。

抽出児M

「特製ミルク」作りが再び始まると，もう手には折り紙のパペットはなかった。興味を示していた雪のような石鹸削り。E児から道具を借りる時に「大雪降らせて」の言葉を受けると「大雪降らせてくるから待ってて！」と弾んで答え，勢いよく走りだした。仲良しのD児に見せたり，ビオトープや石の上等，あちらこちらに石鹸の雪を表現して楽しんだ。しばらくして「特製ミルク作り」の所に戻ると，枯れた植物の茎の端を２つのペットボトルの口にそれぞれ差し込み繋げていたので，私が「これは何？」と聞くと「ジャイアン特製装置！」と答えた。それを見てO児が「牛乳装置？」「自動で作っているってことだよね」と反応すると，笑顔で頷いた。「特製ミルク」を作る工程を近くで気にしながらも，様々なことを閃いて，アイディアを遊びの中に取り入れて表現していく姿があった。ペットボトルが倒れた瞬間に，中から液が飛び出す様子を偶然見掛け「水鉄砲みたい」「飛び出すミルクだ」と何度も繰り返し表現したり，土を小さなペットボトルですくって，テーブルや岩にペタペタと押し当てながらスタンプのようにしたり，白い石鹸で「書けるんだよ」と言って，岩や木にお絵描きをした。また，その石鹸にシロツメクサを絡ませたもので書くと「緑になった！」という発見も喜んでいた。次々に，試して発見したことや考えたことを表現し楽しみ，友達や私に伝えていた。私もその都度，言葉を掛けたり，質問したりするので，M児も一つ一つ思いついた表現を見せていた。「特製ミルク」が完成すると，室内でケーキ屋さんや焼肉屋さんで遊んでいる友達の所へ駆け寄り，完成したことを大きな声で報告。その後，特製ミルク作りの場所に戻り，ボウルの中にあった「特製ミルク」に，水草を入れてヘラで潰し「ジャイアンの水草ミルク」を新たに作った。「超臭い水草ミルクだよ」と匂いを嗅いだり周りに嗅がせたりして，友達と作った沢山の特製ミルクを数えたり眺めて満足気の表情を見せた。

≪考察≫

学級全体

男の子の仲良しグループは，この日もいつものように自然とビオトープ周辺に集まる姿があった。生き物が好きで，関わることができる気に入った環境であると同時に，そこへ行くと何か気持ちが弾む面白い出来事が起きたり，心揺さぶられる体験ができる場所として，一人一人の中に位置付けられているからだと考える。ワクワクする気持ちやドキドキする思いを，友達と共に味わえてきた場所，味わえる場所なのだろうと考える。それは，幼児が普段の遊びを「修行」や「研究」として見立てて楽しんでいこうとする姿からも読み取れる。見立てることで，いつもの遊びに変化が生じ，閃きやアイディアも次々と溢れ出て，表現へ繋がる姿がどの子からも感じ取れる。「ジャイアンの特製ミルク作り」とは，私からは突拍子もないような提案のように思われたが，振り返りで話を聞いてみると，以前にG児が泥水遊びをしていて思いついたようである。この日は，その遊びを見ていた幼児の一人がふと思い出し提案して始まったことで，突拍子もないことではなくて，幼児達の中では遊びは繋がり，連続していたと分かる。「特製ミルク作り」という一つの目的を持って取り組む中で，アイディアや考えをそれぞれが表現し合ったり，思いを調整したりし「ミルクだから白色」「苦いのを作る」と方向性を幼児なりに確認し合って進めている様子があった。でも目的は「友達に飲ませて驚かせる」ことから「悪いことしている人に飲ませる」「泥棒へ」と広い範囲へ変化していた。幼児なりに持つ正義感や，良いことを行うという律する気持ちが，見立て遊びの中でも面白く表れたと考える。友達のD児に持っていった時に，思ったよりも反応が弱かったことが再挑戦へと奮い立たせ，友達との団結心が育まれながら，試行錯誤していく過程を生み出したきっかけの一つと考える。また，考えたり工夫したり試したり，そしてうまくいったりいかなかったりしながらも，傍で友達や私が興味を持って見守ったり「すごいね」「面白いね」と一つ一つに反応したり，認めたり共感したことも力となり，意欲や挑戦への後押しとなったと考える。また，遊び方やイメージの違いで友達と言い合いになったり，気分を悪くする場面もあったが，トラブルも互いを知るチャンスとして捉え，大事なことと考える。実際に，活動終了間際には「みんなに発表したい」「明日もやる」という意欲的な声が聞かれ，共感し合って多様な表現を存分に楽しんだそれぞれの生き生きとした表情や姿があった。

抽出児M

修行ごっこの時とは違い，友達からの「特製ミルク作り」の提案を聞いた瞬間から表情が変わり，真っ先に反応し動き出す様子があった。興味や期待の高さが読み取れ，気持ちの高ぶりが表情や行動にしっかり表れたことが分かる。手に付けていた手作りパペットを，別のものと変えたり外したりしたことも気持ちが切り替わったことを表すことだったと捉える。ペットボトルやボウル，ストロー等の様々な道具を使ったり，草や土，石鹸等の材料に実際に触れて，その性質や仕組みに興味を示しながらいろいろ確かめたり，新たな面を発見していく姿があり，遊びの中で活かして表現されていた。そして，その気付きや面白さと，友達との繋がりの中で，更に遊びや表現が広がったり，深まっていったと考える。「特製ミルク作り」を中心に，いろいろなことに関心を寄せ，物との関わりを楽しみながら，溢れ出す表現を目一杯楽しんでいく姿が読み取れた。「今日は何の研究する？」と最初に発したM児の言葉が納得できる。一つのことを集中してどんどん追及しながら，詳しく知ったり発見し，表現することを楽しんでいる。安心して自己を発揮したり試すことができる場所や

時間，人的環境が築かれてきたからだと考える。

≪抽出児M児の振り返りコメント≫

楽しかった！修行は厳しかった・・まだ水に打たれる方がいい。雪，沖縄でも降ったら面白いなと思った。泥スタンプはひっくり返したら偶然できた。

以上の学級全体と抽出児Mの姿やその変容から，具体仮説３の手立ては有効であったと考える。

４　検証のまとめ

幼児と一緒に場や時間を共有したり，同じことで笑い合ったり共感し合いながら，信頼関係が築けるよう幼児との生活を大切にしてきた。その子なりの姿や気持ちに寄り添う保育を行うことで，幼児が受容される喜びを感じ，教師を安心できる拠り所として，少しずつ自分なりに表現していく変容が見られた。一人一人を知っていく中で，その子なりの表現の仕方や思いを受け止めてきたが，教師の予想を超える抽出児Mの豊かで多様な表現は，教師の表現への理解や支援の枠を広げるものとなった。振り返りやエピソード記述を用いて，幼児を探究したり心の動きに迫ることで，見方や受容の幅も広がり，支援の方法も様々に工夫ができた。幼児の活動の場面に応じた役割を果たしたり，潜在的な可能性を信じて，言葉をかけたり後押ししたことで，幼児は気持ちや思いを表現することを意欲的に楽しむようになり，変容が見られた。

また，場や環境構成の工夫を図ったり，グループや学級での活動や話し合いの場を設けてきたことで，取り巻く環境と関わり，友達と気持ちを共感し合い，互いを更に知ることで親しみが増して仲が深まり，アイディア溢れる遊びの展開が沢山見られるようになった。模索しながらも表現して楽しもうとする幼児の姿が見られるようになり，一人の表現が周りの友達の表現を引き出す力となり，また逆に，周りの表現が一人の友達の表現を引き出す力へ繋がった。

幼児の柔軟で個性的な表現を理解する教師自身の立ち位置や発する一声，心の動きにきちんと応答する等の働きかけは，非常に重要だと捉え，意識して実践してきたことで，幼児が自信や意欲をどんどん高めながら，豊かに心地良く自分なりの方法で伸び伸びと表現する変容が見られた。

以上のことから「保育の振り返りやエピソード記述を通して心の動きに迫りながら，その子らしい多様な考えや思いを理解し支援することで，幼児は安心感や自信を持って，見たこと感じたことを自分なりの方法で，伸び伸びと表現するようになるであろう」という研究仮説が検証できたと結論づける。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題と対応策

１　研究の成果

（１）保育の振り返りやエピソード記述を用いた読み取りや分析により，その幼児なりの姿や思いに深く探究することができたことで，多様な表現の理解や個々に応じた支援が図られ，楽しみながらその子らしく表現する姿が見られるようになった。

（２）教師や友達と相互に受容する関係性の築きによって，十分に関わりながら夢中で遊び，試行錯誤を繰り返しながらも，アイディア溢れる遊びの展開がもたらされ，表現の豊かさや意欲の高まりへと繋がった。

２　今後の課題と対応策

（１）学級の振り返りで，幼児が喜んで伝えようとしたことへの，教師の反応がもう少し必要だった。その場や話をまとめようとする思いが，強く出過ぎてしまっていた。教師自身が感動した出来事や，幼児の表現で心動かされたことに対して，先ずは素直に反応を示し，共感し合いながら，多様な言葉をかけていき，更に幼児の思いや言葉を引き出すことで，表現意欲を高めたい。

（２）学級やグループの伝え合う場に，積極的に参加できていなかったり，友達に話すことや聞くことを意識できていなかったりする幼児がいた。場の経験を重ねながら，毎回活動の目的を示して確認し合い，相手を意識した伝え方や聞き方が楽しくできるように方向付けたい。そして，更に友達を知って仲が深まり，刺激し合うことで学級を活気付けたい。

【参考文献】

（1）文部科学省　「幼稚園教育要領解説」フレーベル館　2018
（2）西久保礼造著「保育実践用語事典」　ぎょうせい　1981
（3）森上史朗･柏女霊峰編「保育用語辞典」ミネルヴァ書房 2000
（4）大嶋恭二・岡本富郎・倉戸直美・松本峰雄・三神敬子編「改訂保育者のための教育と福祉の事典」　建帛社　2012
（5）平田智久・小林紀子・砂上史子編「保育内容『表現』」ミネルヴァ書房　2010
（6）池田裕恵･猪崎弥生編「保育内容『表現』」杏林書院　2016
（7）森上史朗編　「幼児教育への招待」ミネルヴァ書房 1998
（8）黒川建一・高杉自子編　「保育講座保育内容表現」ミネルヴァ書房 1990
（9）田澤里喜編　「表現の指導法」　日新印刷株式会社　2014
(10) 秋田喜代美編「新しい幼稚園教育要領と実践事例集第４巻」チャイルド本社　2000
(11) 鯨岡峻著　「エピソード記述入門」　東京大学出版会　2005
(12) ヴィゴッキー著　柴田義松訳「新児童心理学講義」新読書社　2002